

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	(返) (赤)
配架番号	3 A
	14
	33-34

RESTRICTED

WDC No \_\_\_\_\_ Team    Scanner \_\_\_\_\_ Index No \_\_\_\_\_

311. Typewritten mimeographed loose-bound booklet, "Explanation on the Confiscated 3.7 inch Antiaircraft Gun,"  
397341 1st Army Technical Research Laboratory, 1942.

---

---

---

---

---

---

---

---

RESTRICTED

め  
く  
れ  
ず

4538

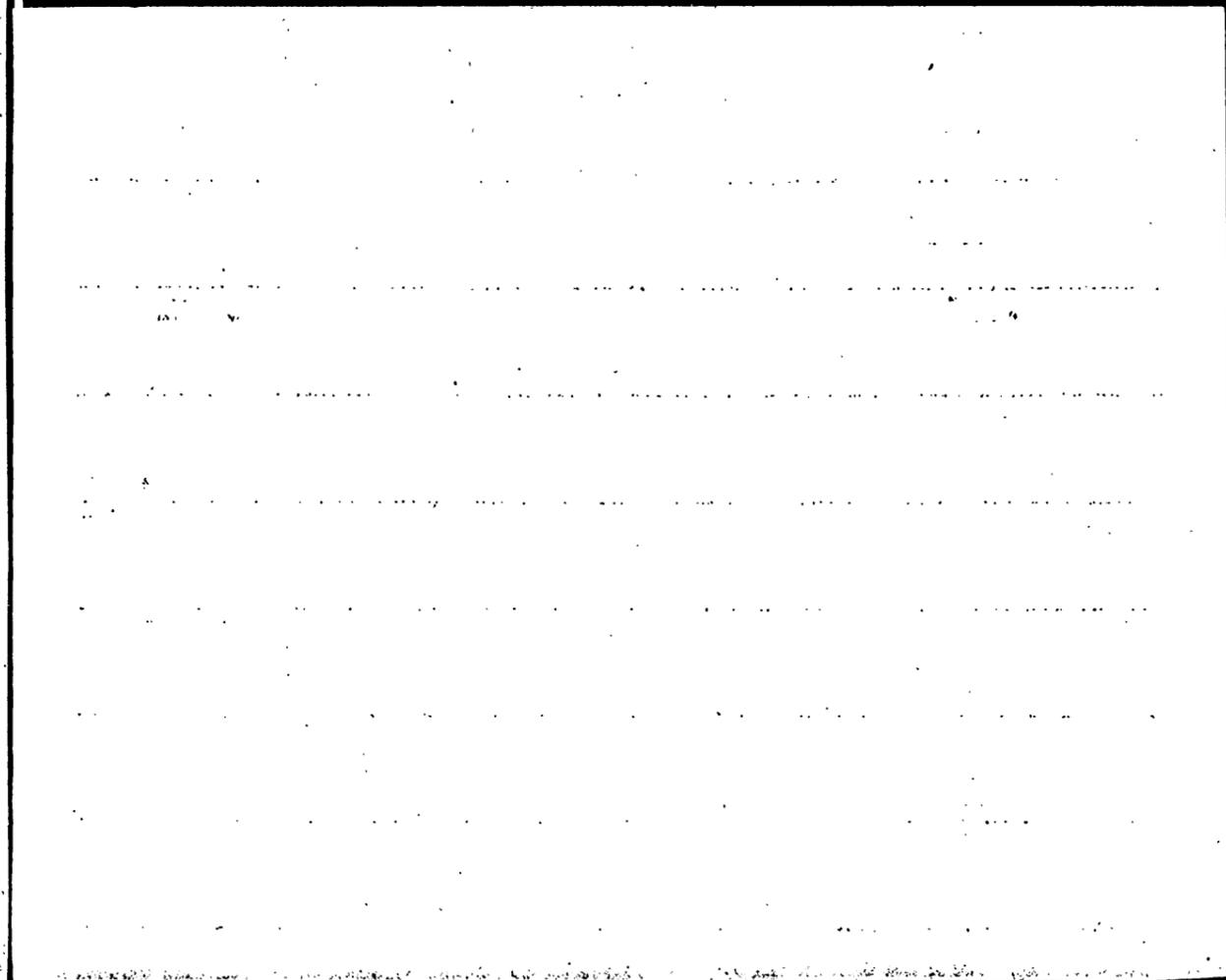
SHIPPING ADVISE# 10112  
SERIAL # 17  
ITEM # 311

押  
收  
三  
・  
七  
吋  
高  
射  
砲  
説  
明  
書

~~15~~  
15

国立公文書館	
分類	
配架番号	33-34

昭和十七年十二月  
第一陸軍技術研究所調製



彈收三・七吋高射砲說明書目錄

第一編 總 說	一頁
第二編 各部ノ構造及機能ノ大要	二
第一章 砲 身	二
第二章 閉 鎖 機	二
第一節 開閉裝置	三
第二節 擊發裝置	五
第三節 安全裝置	五
第四節 減衝裝置	六
第三章 蒲架（接填架共）	七
第四章 座 機	八
第五章 復 坐 機	九
第六章 砲架（平復機共）	一〇
第七章 高低照準機（高角受信器共）	一一



- 附圖第十九 方向受信器（方向目盛）
- 〃 第二十 信管測合機
  - 〃 第二十一 信管測合機目盛
  - 〃 第二十二 彈丸接装要領
  - 〃 第二十三 砲架（方向座、水準器）
  - 〃 第二十四 砲架（水平校正要領）

押収三・七吋高射砲説明書

第一編 總 説

- 第一 本砲ハ押収三・七吋高射砲ニシテ移動式ト固定式トアリ
- 第二 移装式ハ四輪ノ空氣入り「アイヤ」ニテ進行シ射撃時ハ車輪ヲ除キ砲ヲ着地セシメ四本ノ脚ヲ倒シ杭ヲ打チ込ミ砲ノ安定ヲ保ツ
- 第三 固定式ノ砲ハ「ベトン」砲床上ニテ射撃スルモノニシテ移動式ノ砲長ヲラシムル爲運搬機ヲ附シ得ル如キ構造ヲ有ス
- 砲架ハ高キ二板板ヨリ成リ平衡機ヲ除キテ對艦ヲ附シ座式復坐機ヲ使用シ巨砲ハ巨形ニシテ水平調整機ナシ從ツテ外見上ハ相當移動式ト異リ居レトモ取扱上ハ異ル點少シ
- 以下主トシテ移動式ニ關シテ説明ス
- 第四 本砲ハ砲身、開機機、砲架、座機、復坐機、砲架、高坐機、砲架（高坐受機共）、方向照準機（方向受信器共）、信管測合機、巨砲、脚、車輪、後車輪ヨリ成リ所製ノ機件ヲ附ス

第二編 各部ノ構造及機能ノ大意

第一章 砲身

第五 砲身ハ身管、後筒、砲尾体ヨリ成ル

身管ハ自由突込式ニシテ後部ヲ階シアリ

後筒ハ後部ニ立止部ヲ有シ砲尾体ト結合シ前端ニハ防水環ヲ装着ス

砲尾体ハ閉鎖機室ヲ形成シ二面ニ復座機、下面ニ退退機ト結合スル

部ヲ有ス

閉鎖機室右壁ニハ兼筒子、左端ニハ閉鎖止ヲ装着ス、上面及下面ニ

ハ半筒ヲ有ス

第二章 閉鎖機 (附圖第七乃至第十五)

第六 閉鎖機ハ水平突込式ニシテ自由突込式ニ有シ左ノ機構ヲ備フ

見 閉 鎖 機

安 全 機 室

閉 鎖 機 室

閉 鎖 機 室

第一節 閉鎖機

第七 閉鎖機ノ旋回ニ依リ復座機ヲ閉鎖スルコト一般突込式ト同一ナ

リ 砲架上部ノ準板後部及砲尾後面ノ復座機止部ヲ位置ヲ移動スルコ

トニヨリ手動閉鎖及自動閉鎖ニ變換スルモノトス

第八 手動閉鎖

復座機止部ヲQDノ位置(下方)ニテシ閉鎖機ノ復座機止部ヲ把子ト共

ニ連リ之ヲ旋回ス然ルトキハ主軸下部ノ閉鎖板ニ結合サレアル滑動

板ヲ復座上面ノ準板ニ沿ヒ移動セシム、滑動板ハ先ツ復座機止部甲ノ

ころニ作用シ之ト結合セル鉤棒ヲ旋回シ復座機止部ニシテ復座機

ヲ開放ス

復座機止部ニ伴ヒ復座機止部乙ハ復座機室ノ準板ニヨリ旋回セシメラレ

復座機止部ヲ壓縮シテ復座機止部ヲ後退セシメ復座機止部ニシテ

開放ノ後部ニ於テ復座機止部ハ砲尾ニ結合シアル復座機止部ニ當リ内部ノ

復座機止部及復座機止部ヲ壓縮シテ復座機止部ノ衝力ヲ緩和シ且復座機止部

道カニ開鎖セシムル流カツ存ス

銃筒子ハ復舊ノ後部ニ當リテ左旋回シテ藥莖ヲ應出シ閉鎖止ハばぬ  
ノ方ニヨリテ後方ニ旋回シ鎖栓ヲ開放位置ニ保ツ

第九 彈丸ヲ發射スルカ及ハ閉鎖止ヲ前方ニ押セハ鎖栓ハ油ノ作用ニ  
ヨリ油二液閉鎖シ砲尾体下面ヨリ突出セル磁栓ニヨリ止ル

第十 自動閉鎖

自動閉鎖ヲ行ハシムルニハ準液液桿ヲ前方 SAノ位置ニシ且彈丸ヲ發  
射シムル後液液桿止點迄三方 SAノ位置ニナスモノトス

第十一 然ルトキハ發射時砲身後坐ニ際シテハ主軸ころハ開放準板ヲ  
壓シツツ鎖栓スルモ復坐ニ際シテハ開放準板ノ後面ニ沿ヒテ旋回セ  
シメラシテ主軸ヲ固シ閉鎖機ヲ閉クモノトス

第十二 此ノ際液液桿止點把ノ作用ニヨリ凸筒ハ閉鎖機桿ノ孔部ニ突  
入シ降下セサル如クナシアリ又閉鎖機桿ト主軸トハ内部ニ於テ連結  
シアラサル爲閉鎖機桿ハ其ノ儘ニテ主軸ノミ旋回シ鎖栓ヲ閉クモノ  
トス

第十三 自動閉鎖ヲ止メルニハ準板液液桿ヲ後方 HANDノ位置ニ廻シ液液桿  
止轉把ヲ手動(下方)ニ位置セシメ手動液液桿ヲシツカリ支ヘツツ押  
栓ヲ押シ液液桿ヲ閉ク然ルトキハ開放準板ハ移動シテ主軸ころト接觸  
ヲ斷ツシ以テ開機セス

第二節 發射装置

第十四 發射ヲ行フニハ安全栓ヲ FIRE (發火) (上方)ノ位置ニナ  
シ引鐵ヲ後方ニ引クヘシ

然ルトキハ傳導装置ヲ經テ閉鎖機室内ニアル扛桿ヲ押シ上ク扛桿ハ  
鎖栓内ニアル逆鉤脱子ヲ扛上ス次テ逆鉤脱子ハ逆鉤先端ヲ押上ク從  
ツテ逆鉤後端ハ磁莖トノ接觸ヲ斷ツヲ以テ磁莖ハ同ばぬノ彈撥力ニ  
依リテ前進シ發火セシムルモノトス

第十五 不發ノ場合ハ鉤桿ヲ前方ニ引クヘシ然ルトキハ鉤桿先端ハ磁  
莖ヲ後退シ逆鉤ニ鉤セシメ再ヒ發火前ノ位置ニ蓄ス

第三節 安全装置

第十六 安全栓ヲ安全ノ位置(下方)ニセハ安全栓ノ握把部根元ノ膠

大部ニヨリ鉤桿ハ前方ニ押サルルヲ以テ擊莖ヲ後退セシムル作用ヲ  
ナス其ノ左端ハ後方ニ移動シ擊發シタル場合擊莖ヲ中途ニテ止ム  
即チ引鐵ヲ引クコトハ可能ニシテ擊莖ハ前進スルモ鎖栓前面ヨリ突  
出セス從ツテ發火セス

第十七 不時ノ危害ヲ豫防スル裝置

1. 不完全閉鎖ニ於テハ扛桿ハ鎖栓ノ逆鉤脫子ニ正對セス從ツテ引鐵  
ハ引ケス

2. 引鐵牽引中ハ扛桿ハ鎖栓下面ノ逆鉤脫子ノ孔中ニ突入シアリテ鎖  
栓ノ開放ヲ妨ク

3. 閉鎖途中ニ於テ擊莖前進スルモ擊莖脫子乙ハ閉鎖機室準溝ニ沿ヒ  
回轉シアレハ鉤桿左端ハ正規ノ位置ヨリ後退シアリ擊莖ハ途中ニ  
テ止メラレ擊發セス

4. 閉鎖機開放シアラサレハ裝填架ヲ裝填位置ニナシ得ス  
5. 裝填架完全ニ射擊位置ニ復歸セサレハ閉鎖シ得ス

第四節 抽筒裝置

第十八 鎖栓開放ノ終期ニ於テ鎖栓ノ踵部ハ抽筒子ノ左端ヲ後方ニ移  
動セシメテ抽筒スルト共ニ閉鎖止ハばねノ力ニヨリテ後方ニ旋回シ  
鎖栓ノ斜面ニ接觸シテ開放位置ヲ保ツ

第十九 此ノ際鎖栓ハ緩衝機ノばねノ力ニヨリ常ニ閉鎖セントスル作  
用ヲ生シ閉鎖止ニ接觸シアルモノトス

第三章 抽筒架

第二十 抽筒架ハ被套式ニシテ後端近クニ砲耳ヲ有シ所謂低砲耳式ナリ  
平衡機ニヨリ後端ヲ引カル

中央ハ砲身挿入孔ニシテ砲身後復坐ノ準ヒヲナシ上方ニ復坐機、下  
方ニ駐退機ヲ結合シ其ノ他自動開放裝置及裝填架ヲ附ス

第二十一 裝填架ハ彈藥筒ヲ大射角ニ於テモ容易ニ裝填シ得ル爲ニ裝  
著シアルモノニシテ裝填要領左ノ如シ

1. 閉鎖機ヲ開キ彈藥筒ヲ裝填架上ニノセ駐板ヲ握把ト共ニ握リ裝填  
架ヲ砲中心線方向ニ押シ倒シ駐板ヲ放セハ駐板ニ連結セル駐栓ハ  
抽筒架後端左側上部ノ孔ニ挿入シ裝填架ハ裝填位置ニ駐止ス

2. 曳索ノ握把ヲ引ク然ルトキハ曳索先端ノ撞彈筒ハ彈藥筒ヲ前進セシメ藥室內ニ入ラシム

3. 銃板ヲ握把ト共ニ握リ裝填藥ヲ射擊位置ニ引キ起シ撞彈筒ヲ後方ニ引キ戻ス

#### 第四章 駐退機 (附圖第十六)

第二十二 駐退機ハ砲身ノ下方ニ在リ水壓式ニシテ前方ニ豫備液室ヲ有シ後方ハ活塞桿ヲ以テ砲身連結管ニ結合ス

後坐長ハ二八一三二吋ニシテ駐退液量ハ豫備液ヲ合セテ約八・五立ナリ

#### 第二十三 駐退機ノ機能

砲身ハ活塞桿ヲ伴ヒテ後坐ス從ツテ活塞桿後方ノ液ハ活塞頭ニ壓セラレテ活塞ト節制桿トノ間ニ流出シ後坐ヲ節制ス

此ノ際節制桿頭部ノ復坐節制桿ハ液壓ニ依リテ後方ニ壓セラレ液ノ一部ハ活塞桿内ノ節制桿後方ヲ充ス

砲身復坐ヲ始ムルヤ復坐節制桿ハ前方ニ壓セラレテ節制桿ト隣トノ

間ハ閉塞セララル從ツテ液ハ活塞桿内壁ニ刻セル漏孔ヨリ流レテ復坐ヲ節制シ尙一部ノ液ハ節制桿後端ニ貯蓄セル「ナット」中ノ漏孔ヲ通りテ節制桿内ニ入り節制桿先端ニアル復坐調節桿ヲ通り活塞前方ニ至ル

復坐調節桿ハ復坐速度ヲ調節スルモノトス  
駐退液不足スルヤ豫備液室ヨリ自然ニ流入ス

#### 第五章 復坐機

第二十四 復坐機ハ砲身ノ上方ニ在リ無液空氣式ニシテ油壓式「パツキング」ニ依リ空氣ノ漏洩ヲ防止スル装置ヲ特長トス

復坐空氣壓ハ三十七氣壓ヲ標準トス

第二十五 復坐機室ハ蓋架ニ結合シ其ノ内ニ復坐活塞桿ヲ裝入ス

前方ハ接續架ニヨリ復坐活塞桿及二箇ノ接續桿ヲ接續ス、二箇ノ接續桿後端ハ「ナット」ニヨリ砲尾上面ニ結合セラル

蓋架左側ニ壓力計及油壓計被裝置ヲ有シ夫々導管ニヨリ復坐機ニ接續ス

第二十六 復坐機ノ機能

砲身ハ連結桿ヲ伴ヒテ後坐ス  
復坐活塞桿ハ前方ニ於テ緩衝架ニヨリ連結桿ニ緩衝シアルヲ以テ砲  
身ノ後退ニ伴ヒ後退シ復坐管内ニ進入ス從ツテ復坐管内ノ空氣ハ壓  
縮セラル、砲身ノ後退止ムヤ壓縮セラレタル空氣壓ヲ以テ砲身ヲ復  
坐セシム

第六章 砲 架

第二十七 砲架ハ側板式ニシテ匡礎上ヲ旋回シ且水平規正ヲナシ得ル  
如キ構造ヲ有ス

後方上部ニ砲耳室ヲ右側ニ起伏式ノ踏板及方向照準機（方向受信機  
共）左側ニ高低照準機（高低受信機共）及信管測合機ヲ裝著ス  
照準手坐ハ各自ノ体格ニ應シ適宜ニ規正シ得

第二十八 平衡機ハばね式ニシテ左右二本ヨリ成リ平衡機室内部ニば  
ねヲ收容シ後方ニ鏈ヲ出シ其ノ鏈ヲ以テ藩架ノ後端ヲ引張り俯仰ヲ  
輕快ナラシム

平衡機室上方ニ後車輪懸吊架ヲ裝著シ放列姿勢ノ場合後車輪ヲ懸吊  
スルニ供ス

第七章 高低照準機（附圖第十八）

第二十九 高低照準機ハ砲架左側ニ裝著セラレ高低「ハンドル」ノ回  
轉ニヨリ連結桿及齒車、永轉螺ヲ適シ藩架下面ノ齒弧ヲ介シテ砲身  
ヲ俯仰セシム

射撃ノ衝力ニ應スルタメノ摩擦板ヲ有ス  
左側砲耳室ニ射角板ヲ有シ、 $-5^{\circ}$ ノ目盛ヲ刻シアリ

第三十 高低受信機ハ高低「ハンドル」上方ニ裝著シアリ

圓形目盛板ノ最小目盛ハ $1^{\circ}10'$ ニシテ一周ハ $10^{\circ}$ ナリ、半圓形目盛板ノ  
最小目盛ハ $10'$ ニシテ圓形目盛板ヲ一周セハ半圓形目盛ノ $10'$ 移動ス

高低受信機左側ノ修正輪ニヨリ $0^{\circ}$ ヲ規正ス

高低「ハンドル」ノ回轉ニ伴ヒ本目盛ハ射角ニ應スル角度ヲ示スモ  
ノトス

高低「ハンドル」一區轉セハ射角 $2'$ 移動ス

第八章 方向照準機 (附圖第十九)

第三十一 方向照準機ハ砲架右側ニ裝着セラレ方向「ハンドル」ノ内  
部ニヨリ連結桿及齒車、永時等ヲ廻シ匡礎内面ノ大齒車ニ對シ砲  
架以上ヲ旋回セシムルモノトス  
運行時ノ砲架以上ノ方向移動ヲ防止スルタメ方向駐輪ヲ有ス (附圖

第二十三)

第三十二 方向受信機ハ方向「ハンドル」上方ニ裝着シアリ  
圓形目盛板ノ最小目盛ハ1.10ニシテ一周ハ10ナリ、半圓形目盛板ノ  
最小目盛ハ1.0ニシテ圓形目盛板ヲ一周セハ半圓形目盛ノ1.0移動ス  
方向受信機右側ノ修正轉輪ニヨリ0ヲ修正ス  
方向「ハンドル」ノ回轉ニ伴ヒ本目盛ハ方向ニ應スル目盛ヲ示スモノトス  
方向「ハンドル」一回轉セハ方向2移動ス

第九章 信管測合機 (附圖第二十、二十一)

第三十三 砲架左側托板上ニ備有「ボルト」ヲ以テ調整セラレアリ運  
行時ハ砲架ニ接シテ位置セシメ操作時ハ外方ニ移動シ各目取板ニ容

易ナル方向ニ位置セシムルモノトス

第三十四 信管測合機ハ信管測合機構ト受信機構トニ大別ス

第三十五 圓形目盛ハ信管秒時ニシテ最目盛ハ1.4秒ナリ

0秒} 30秒 目盛ヲ刻シアリ、中央下部ノ規正轉輪ニヨリ0ヲ規正シ

分暨受信「ハンドル」ヲ以テ指針ヲ移動スルモノトス

第三十六 左方形ノ目盛ハ信管ノ種類及各信管ノ製造口ニヨル修正

装置ニシテ左方ノ修正分暨轉輪ニヨリ修正スルモノトス

第三十七 右方形ノ目盛ハ修正結果標示目盛ニシテ信管ニ測合セラ

ルヘキ秒時ヲ標示スルモノナリ

第三十八 信管ヲ測合スルニハ彈丸彈入孔ニ彈藥ヲ裝入シ彈丸固定穴

「ハンドル」ヲ左手エテ強引キタル儘右手ヲ以テ信管測合「ハンドル」

ヲ制限マテ引キ次ニ彈丸固定「ハンドル」ヲ舊位ニ復シタル後信管

測合「ハンドル」ヲ舊位ニ復ス

第三十九 信管測合セハ彈藥ヲ彈丸彈入孔ヨリ拔キ出シ裝填架上ニノ

セル (附圖第二十二)

第四十 「注意」信管ヲ測合スル場合左手ニテ面ク彈丸固定「ハンド  
ル」ヲ引キアルヲ要ス然ラサレハ測合用齒形空轉シテ確實ナル測合  
シテシ得サルモノトス

第十章 匡 渡

第四十一 匡渡ハ中央ニ砲架以上ヲ積セ全周旋回及水平矯正接置ヲ有  
ス  
周圍ニ四本ノ脚ヲ裝着シ前後方ニ車輪車軸ヲ接置シ得ル如キ接置ヲ  
有ス

匡ハ起伏式ニシテ進行時ハ直角ニ起シ瘡ヲ以テ砲架ノ周圍ニ纏着シ  
射撃時ハ水平ニ倒シ床液ヲ潑地セシム

第十一章 進行接置

第四十二 四輪式ニシテ匡渡ノ前後ニ空氣入ノ「ゴム」車輪ヲ裝着シ  
緩衝装置ヲ有ス、尙四輪ニ連結セル制轉機ヲ有シ手動移動ノ場合ハ  
制轉機「ハンドル」ニテ操作シ且自動進行ノ接合ハ自動車ヨリ制轉  
機ニ接續シ操作シ得ル如キ装置ヲ有ス

前章餘ニハ轉向裝置ヲ附シテ回轉半徑ヲ小ナラシムル如クナシアリ  
即チ制轉機「ハンドル」下方ノ轉向轉把ヲ「左方」ニセハ戰桿ハ車  
軸ニ對シ逆動シ「右方」ニセハ直角ニ固定スルモノトス

第三編 砲 發

第一章 分解結合

第一節 題 則

第四十三 分解結合ハ構造機能ヲ良ク理解シタル後本意ニ依リ除クニ  
行ヒ最大ナル力ヲ加ヘサルモノトス

第四十四 分解セル部面ノ接合ハ特ニ示スモノノ外分解ト反對ノ順序  
ニ行フモノトス而シテ部面毎ニ機能ヲ點檢スルヲ要ス

第四十五 照準具、信管測合機、陸退機、復生機、平衡機ハ進兵版ノ  
外分解スヘカラス

第二節 砲 身

第四十六 砲身ヲ架架ヨリ離脱スルニハ左ノ順序方法ニヨル  
ノ編表ヲ水平ニス



シ脱シ蓋蓋脱子甲ヲ左方ニ同乙ヲ右方ニ鉤桿ヲ後方ニ脱ス  
4 緩衝機ノ止めト脱シテ緩衝機ヲ後方ニ抜き出す  
5 安全栓軸止ノ割「ピン」ヲ脱シテ軸止ヲ上方ニ安全栓ヲ後方ニ脱ス

第五十 蓋蓋機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1 磁子ノ蓋帽ヲ押シツツ「ピン」ヲ抜き蓋帽、ばね、壓筒ヲ脱シ次ニ止軸ヲ抜き磁子体ヲ脱ス

2 逆鉤ノ先端ヲ壓シテ蓋蓋後ノ姿勢ニナシ逆鉤軸ノ止めト脱シテ軸ヲ抜き次ニ逆鉤ヲ脱ス

3 ばね止ヲ押シツツ止板ヲ脱シばね及壓筒ヲ分離ス此ノ際ばね止ヲ飛ハササル如ク注意スルヲ要ス

4 蓋底シ左廻シテ蓋蓋、同ばね、蓋板ヲ脱ス  
5 蓋針「ナット」ヲ左廻シ蓋針ト共ニ蓋蓋ヨリ脱ス

第五十一 蓋蓋機ノミヲ分解スルニハ閉鎖機ヲ閉鎖シ引鐵ヲ引キタル後安全栓ヲ安全ノ位置ニシ蓋蓋機ノ磁子ヲ起シ蓋蓋機ヲ約四十五度

(指標カ一致スルマテ)左ニ廻シテ結合ヲ脱シ後方ニ脱シタル後第

五十條ノ順序方法ニヨルヘシ

第五十二 緩衝機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1 ばね室ヲ萬力等ヲ以テ保持シ蓋帽ヲ左廻シ螺脱ス  
2 坐板、緩衝ばね、ばね受、壓筒ばね、壓筒ヲ分離ス

第五十三 閉鎖機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル

1 齒車ヲ持出す  
2 ばね筒ノ止めト脱シテばね筒ヲ左廻シテ脱シ閉鎖ばね、齒桿ヲ脱ス

第二章 放列布置及撤去

第五十四 放列布置ノ行フニハ左ノ順序方法ニヨル

1 砲車ヲ穩定ノ障地ニ導キ牽引車ヨリ脱ス

2 昇降操縦作中ニ火砲ノ移動スルヲ防止スルタメ巨礎兩側ニ二ヶ宛裝着シアル杭ヲ車軸及巨礎ノ孔ニ挿入シテ輕ク打ち込ム(四ヶ所)

3 各脚ノ緩衝機ヲ解キ若干箇ヲ百八十度旋回シタル後砲ノ中心ヨリ夫

々放線状ニ向ケ水平ニ倒シ磁盤ヲ挿入シテ匡礎ト結合ス  
線メ床板ねじヲ廻轉シテ床板ヲ脚ニ接觸セシメ置クコト

名側轉機ノ連結鎖一ケ、連結ダイヤニケテ離脱ス  
5 昇降「ハンドル」ヲ廻シ昇降螺ヲ上ケテ匡礎以上ノ荷重ヲ受ケシ

メ（匡礎磁盤カ抜ケ出ス迄僅カニ輕ク「ハンドル」ヲ廻ス）下端  
ノ匡礎磁盤ヲ抜キ昇降「ハンドル」ヲ逆ニ回轉シテ匡礎ヲ接地セ

シム  
此ノ際因ケ所ノ昇降螺ヲ等齊ニ降下スル如ク昇降「ハンドル」ヲ  
回轉スルヲ要ス

6 磁盤後ヲ抜キテ昇降螺下端ノ連結鎖ト匡礎トノ結合ヲ解ク  
7 前車輪ノ磁杭ヲ抜キテ前車輪ヲ覆倒ヨリ移動ス

8 覆身托架ヲ覆身ヨリ脱シテ前方ニ倒ス  
9 昇降「ハンドル」ヲ回轉シテ後車輪ノ昇降螺ヲ抜キ出シ其ノ上端

ヲ車輪懸吊架ニ接觸シ再ヒ昇降「ハンドル」ヲ回轉シテ車輪ヲ上  
端マテ吊上ケ車軸ト懸吊架トノ結合用磁盤ヲ挿入シテ固定ス

4 方向磁盤ヲ抽出シ左方ニ位置セシム

（方向磁盤先端ハ孔ヨリ抜ケ出シ方向移動自由トナル）  
11 水平規正ヲナス

12 各脚端ノ床板ヲ接地セシム  
13 各脚ニ磁杭ヲ打入ス

第五十五 水平規正ヲナスニハ左ノ順序方法ニヨル  
1 水平規正螺及滑輪ハ九十度ヲ回シテ匡礎ノ周圍ニ四箇アリ對稱ノ

二箇宛同時ニ操作スルモノトス  
2 水平規正「ハンドル」ヲ水平規正螺及滑輪ニ裝入シテ「ハンドル」

上面ノ把手ヲムヌハBニ位置シ（前方ノ「ハンドル」共同一ノ符  
號トス）水準器ノ氣泡ヲ中央ニ導ク如ク「ハンドル」ヲ操作ス

操作中「ハンドル」回クナリタル場合ハ無理ヲスルコトナク一ケ  
所宛別々ニ操作シ旋回ノ自由トナリタル後再ヒ同時ニ操作スルモ

ノトス  
第五十六 砲架右側ノ踏板ノ磁盤ヲ抜キ側方ニ倒ス

第五十七 履帯及足踏ハ各目ノ体格ニ慮スル如ク適宜規正スルモノトス

第五十八 前車輪ノ履帯ハ運行時ハ轉向履帯ヲ「左方」ニナシ遠慮シ  
荷ル如クシ履帯ヨリ離脱シタル場合ハ右方ニナシ決定スルヲ可トス

第五十九 放列ヲ撤去スルニハ履帯右ト反對ノ順序方法ニヨルモ注意  
スヘキ件ヲ左ニ記述ス

人脚ノ三角ニ起シ置ク履帯ニ乗リ以テ履帯シ次ニ床板ヨリ離脱シテ  
床板ヲ内側ニ入レ運行時ノ最大外側履帯ヲ少ニスルコト

第三章 射撃上ノ注意

第六十 射撃上ノ注意ハ本砲ニ特有ノ事項ノミヲ記述スルヲ以テ一般  
的事項ハ本砲高射砲取扱法ニヨルヘシ

第六十一 退液ハ常ニ液室ノ液面ヨリ液面カ見エル程度ニ  
シ置クヘシ

液室液室ハ蒸架右側前方ニアリ注油スルニハ砲身ヲ水平ニナシ上面  
ノ二箇ノ蒸架ヲ蒸脱シ大ナル孔ヨリ注油シ小ナル孔ヨリ排氣シ注液

スルモノトス

第六十二 履帯機内ノ空氣ヲ排除スルニハ壓力計下方ニ在ル排氣孔ヨ  
リ排氣スルモノトス

第六十三 空氣壓ヲ點検スルニハ壓力計蓋ヲ脱シ蓋裏面ヲ充分掃メタ  
ル後蒸架右方ノ空氣機ヲ開キテ壓力計ノ示ス氣壓ヲ讀ムモノトス

第三十七氣壓ヲ標準トス  
目盛ノ外側ハ氣壓、内側ハボンドノ時ヲ示ス

第六十四 壓力計前方ノ油盪標示管針（附圖第十七）ハ復坐機「パツ  
キング」中ノ液壓ヲ示スモノニシテ常ニ晴々中央ニアラシメルモノ  
トス

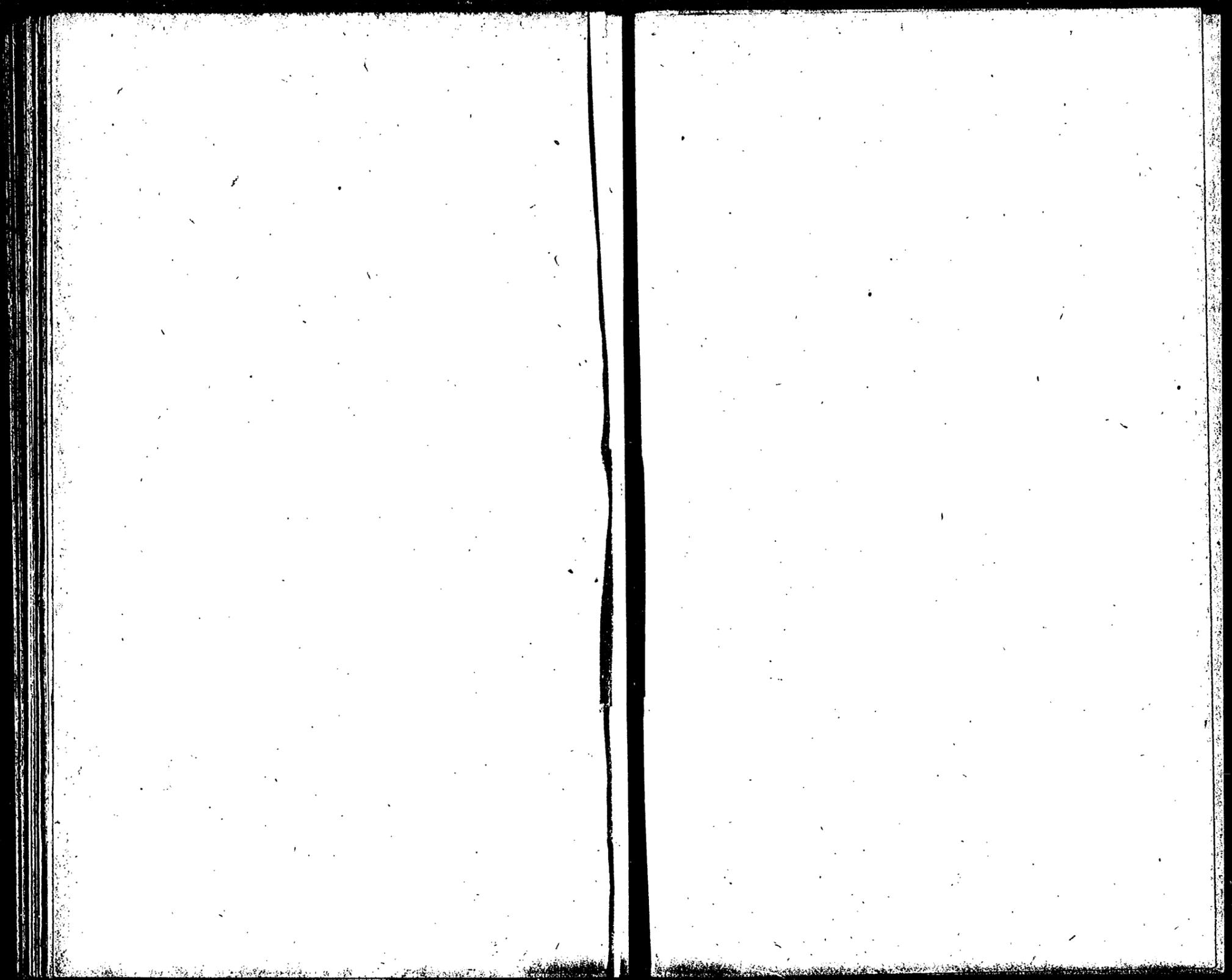
液盪標示管針ハ注油孔ニシテ蓋裏面ヲ脱シ注液「ポンプ」ヲ裝入シタル後  
液盪標示管針ヲ注液「ポンプ」ヲ以テ注油スルモノトス次ニ液壓機  
ヲ閉塞ス

液盪標示管針ハ注油孔ニシテ蓋裏面ヲ脱シ注液「ポンプ」ヲ裝入シタル後  
液盪標示管針ヲ注液「ポンプ」ヲ以テ注油スルモノトス次ニ液壓機  
ヲ閉塞ス

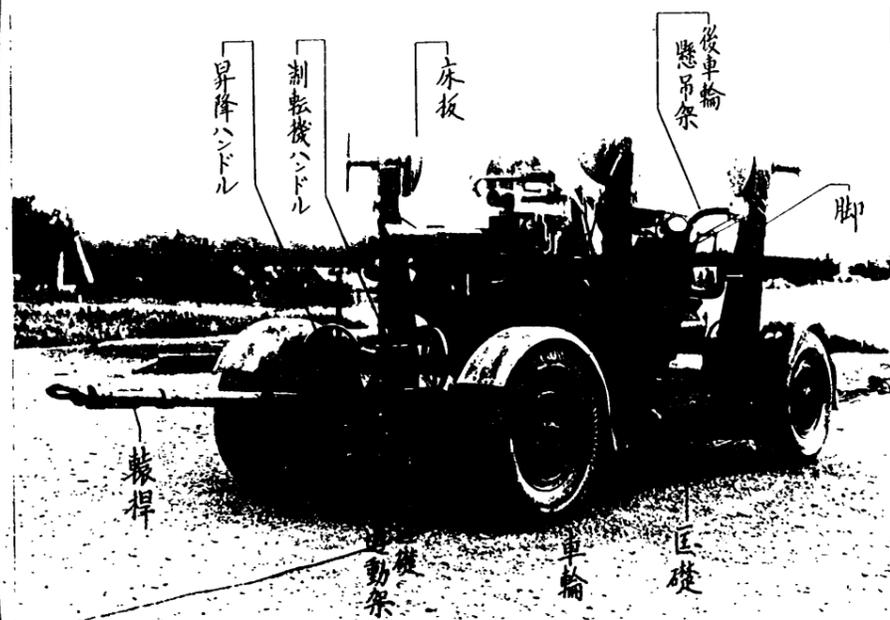








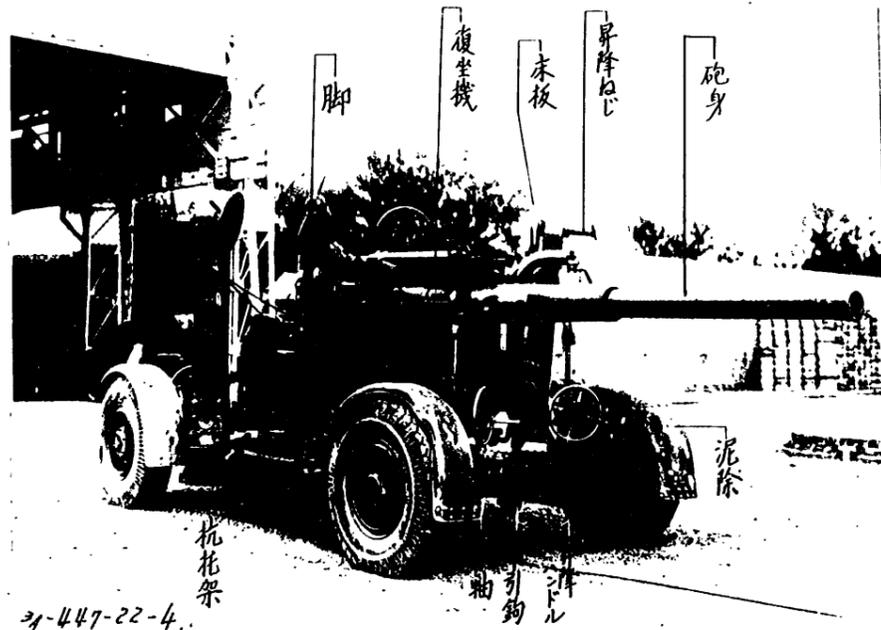
第一圖  
運行姿勢



裏面白紙

階 級 第 二

運 行 裝 備

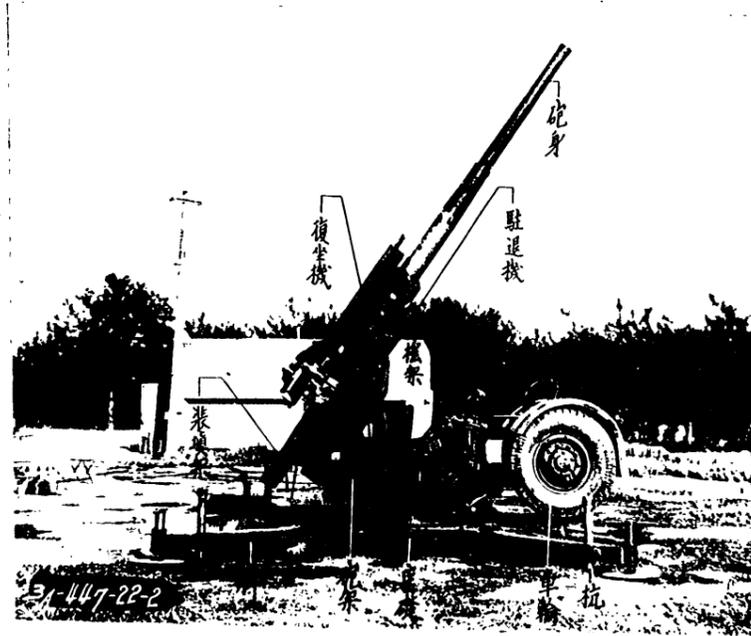


31-447-22-4

裏面白紙

第三卷

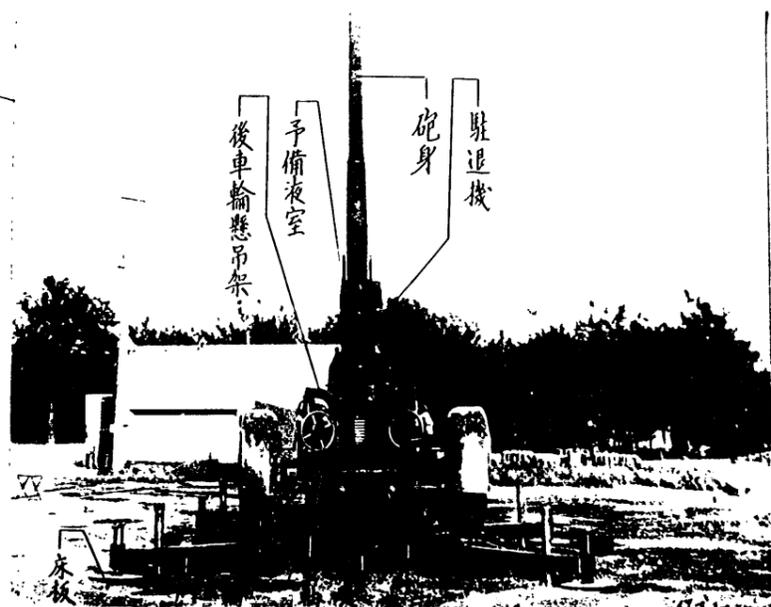
第三卷



裏面白紙

附 圖 第 四

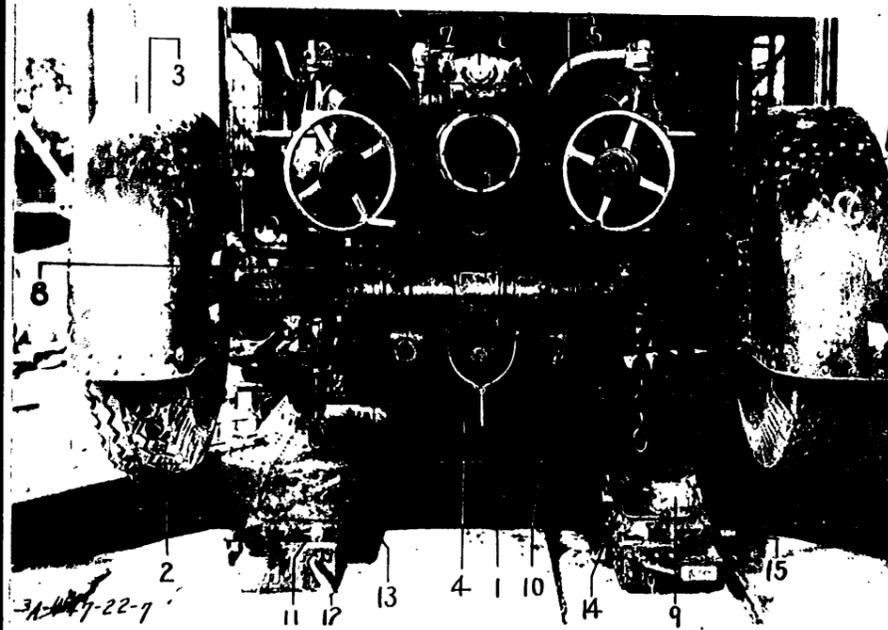
加 友 機 器



裏  
面  
白  
紙

第五圖

加列裝車(前視ニシテ砲身ヲ除キタル場合)

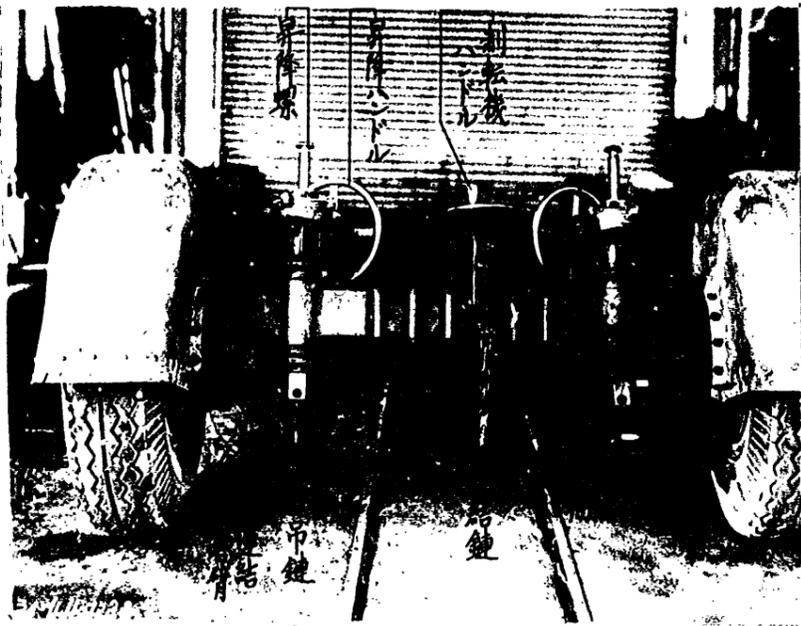


15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番號名
制導機支柱	屬品箱紐着鈎	電線接續具	匡板座	鏡座	平鏡架	砲架	總機室	食糧液室	後座機	後車室	砲身托架	泥除	後車輪	匡板	稱

裏面白紙

陸 軍 第 六

前 車

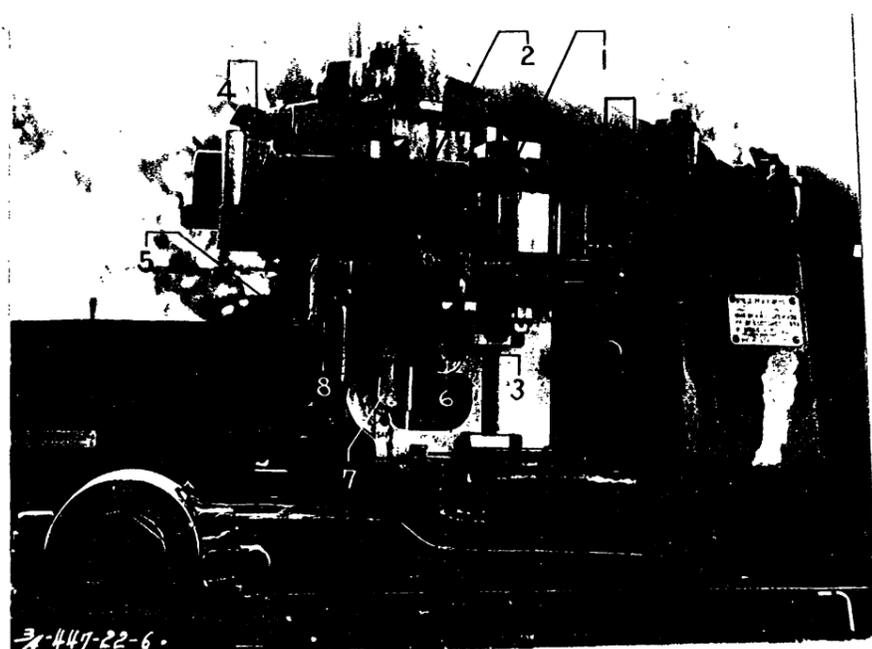


裏  
面  
白  
紙



附 圖 第 八

開 鎖 機 組 立 (右 側 面)



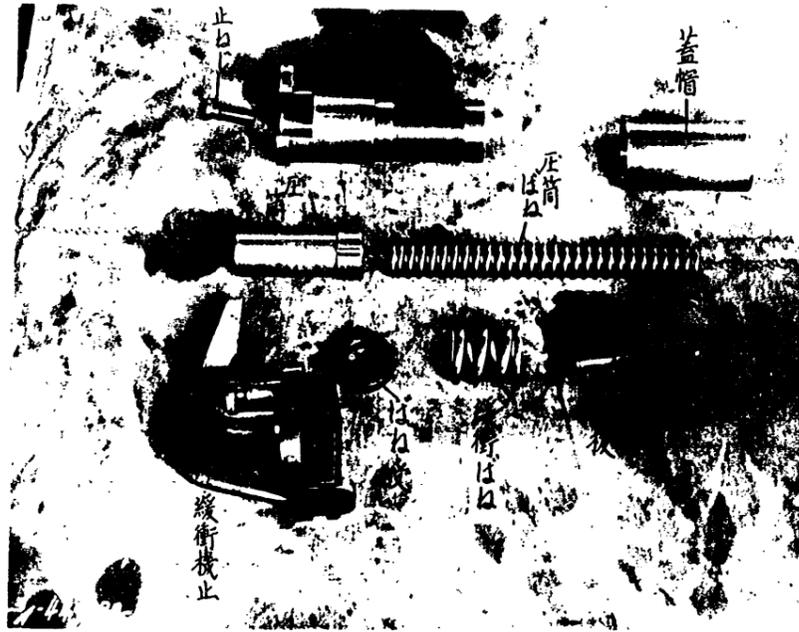
ヲ 447-22-6

9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 號
引	押	安	緩	緩	把	緩	開	主	名
		益	衝	標		衝	閉		
		栓	機	標	子	止	復	機	
				止			標		
				標					

裏 面 白 紙

圖 第 九

閉鎖機部  
(緩衝機)



裏面白紙

附 圖 第 十

閉 鎖 機 部 品  
(開 閉 機 主 軸)

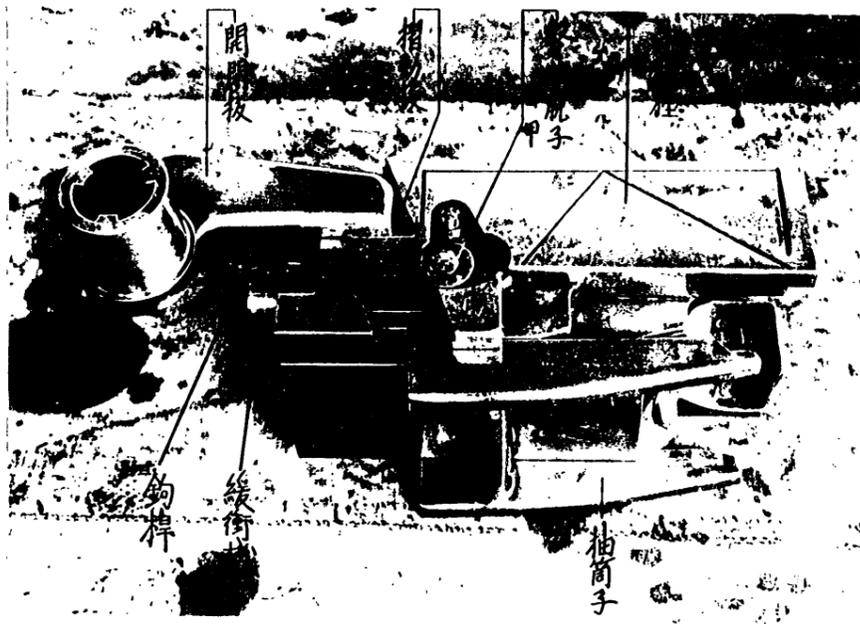


裏  
面  
白  
紙

附 圖 第 十 一

開 關 機 部 品

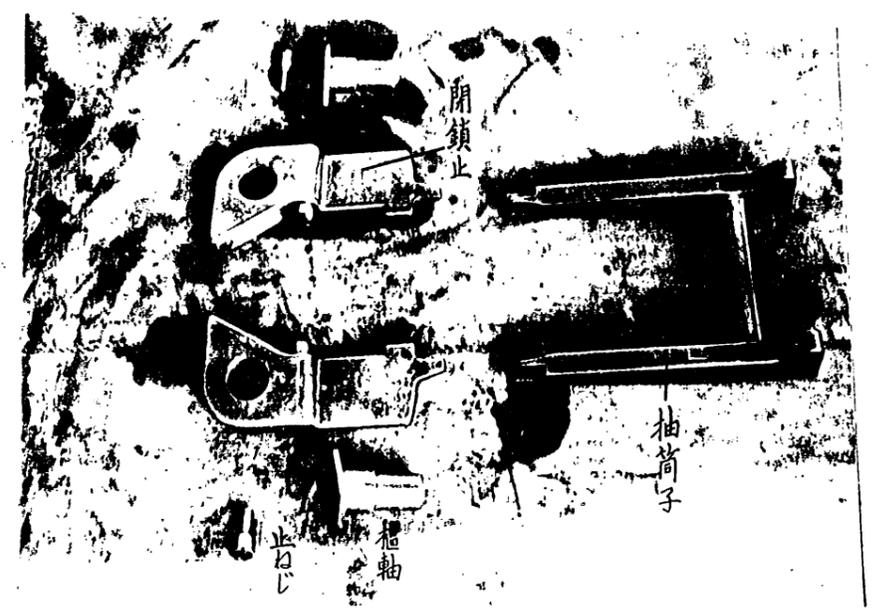
( 鐵 栓、 蓋 開 板、 鉤 筒 子 )



裏  
面  
白  
紙

附 圖 第 十 二

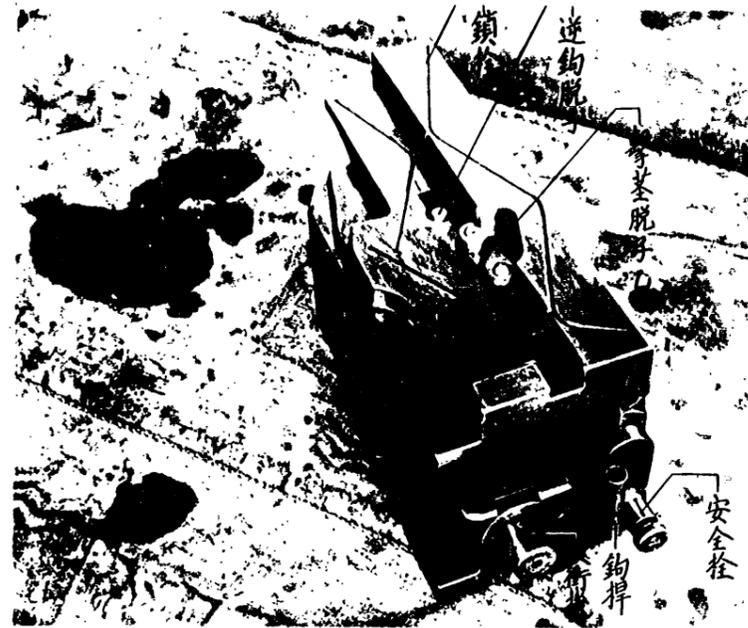
閉 鎖 機 部 品  
( 油 筒 子 )



裏  
面  
白  
紙

第三十圖

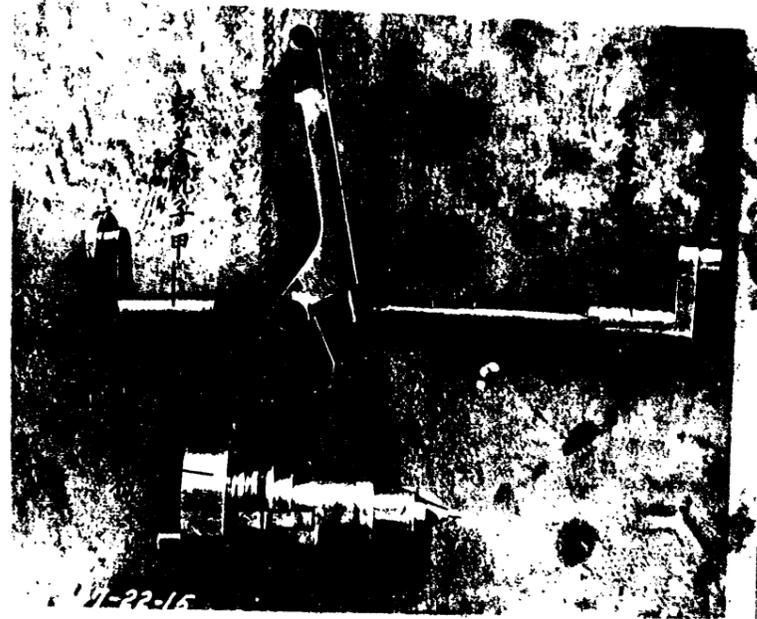
品部機鐵  
( 價 程 )



裏  
面  
白  
紙

附 圖 第 十 四

閉 鎖 機 部 品  
( 登 録 機 )

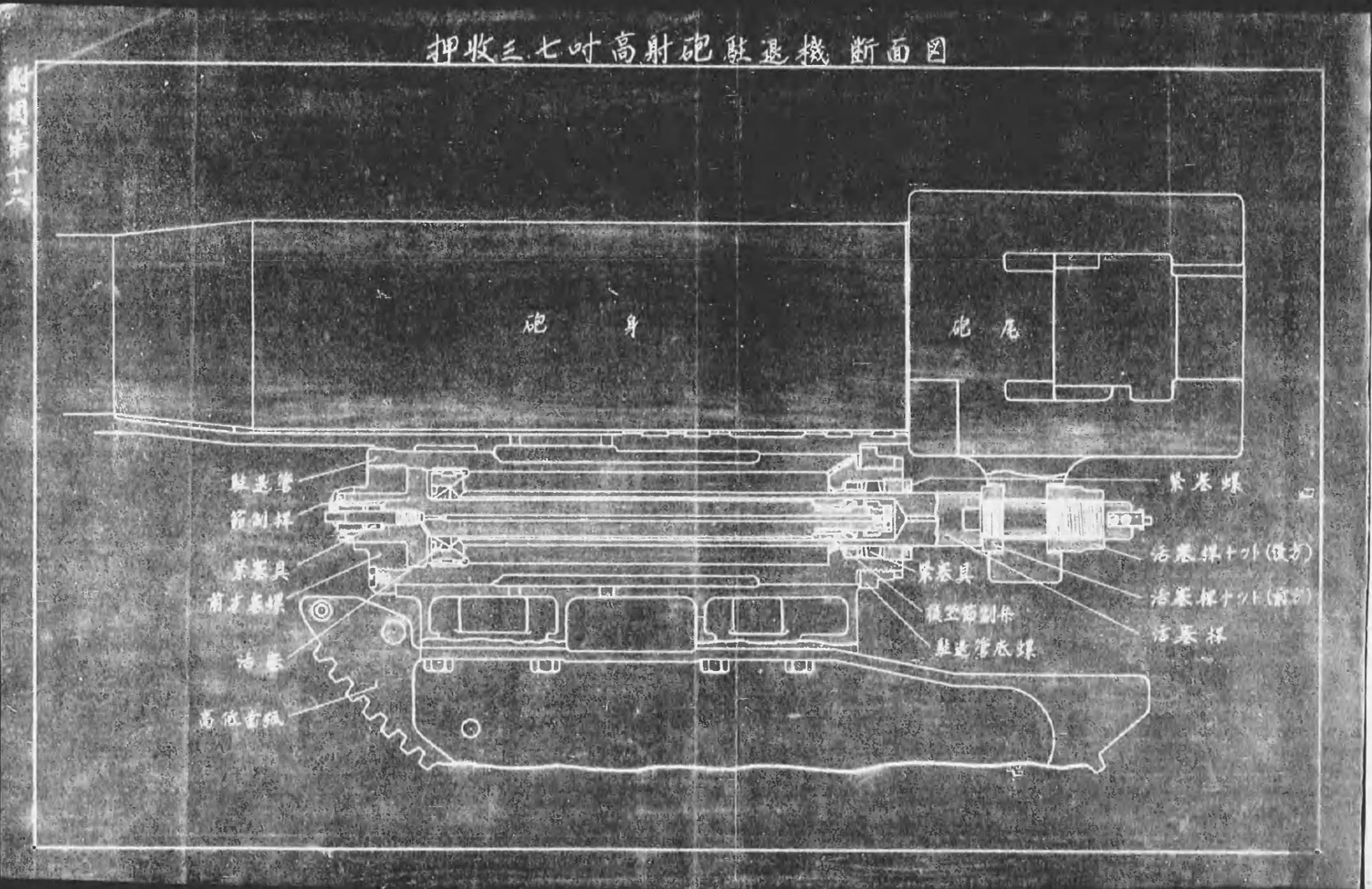


裏  
面  
白  
紙





押收三七吋高射砲駐退機断面図

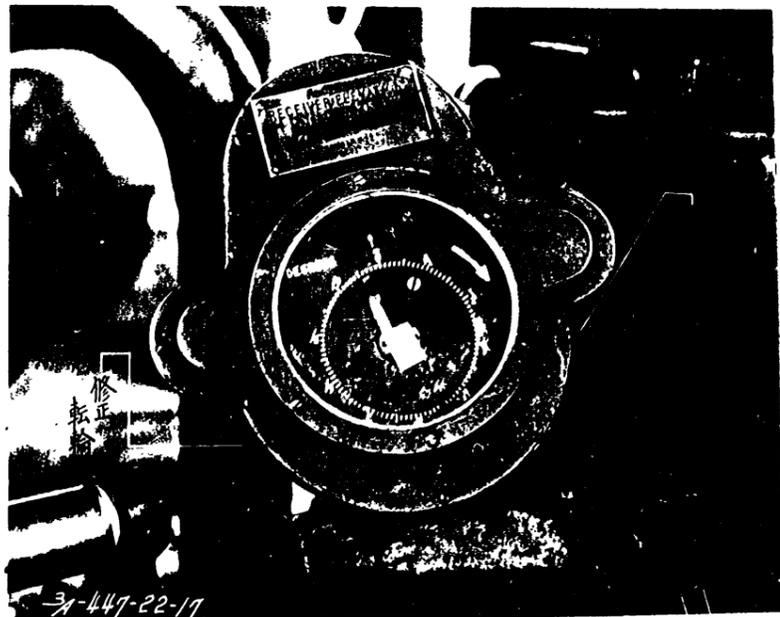


裏面白紙



附圖第十八

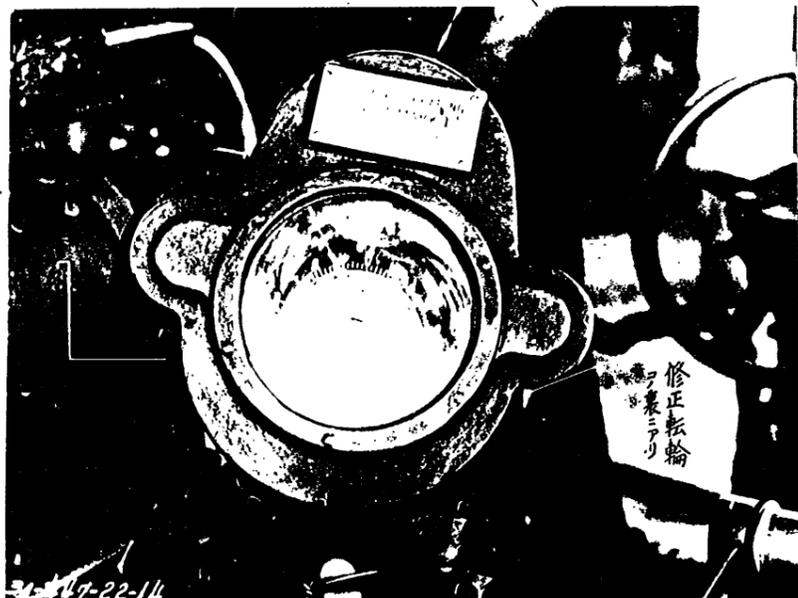
高低照準機  
高低受信器(高低角目盛)



裏  
面  
白  
紙

附 圖 第 十 九

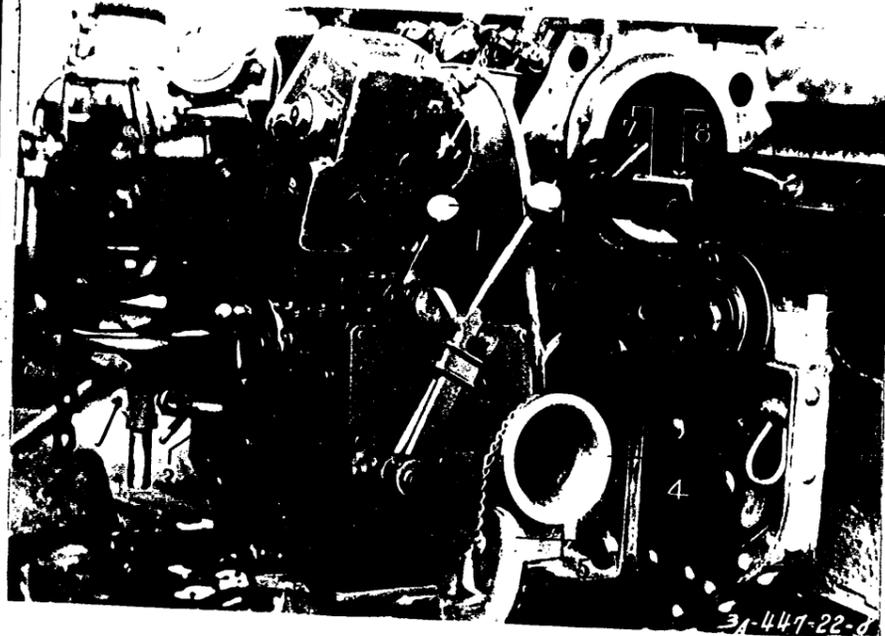
方 向 照 準 機  
方向受信器(方向目盛)



裏  
面  
白  
紙

附 圖 第 二 十

信 管 測 合 機

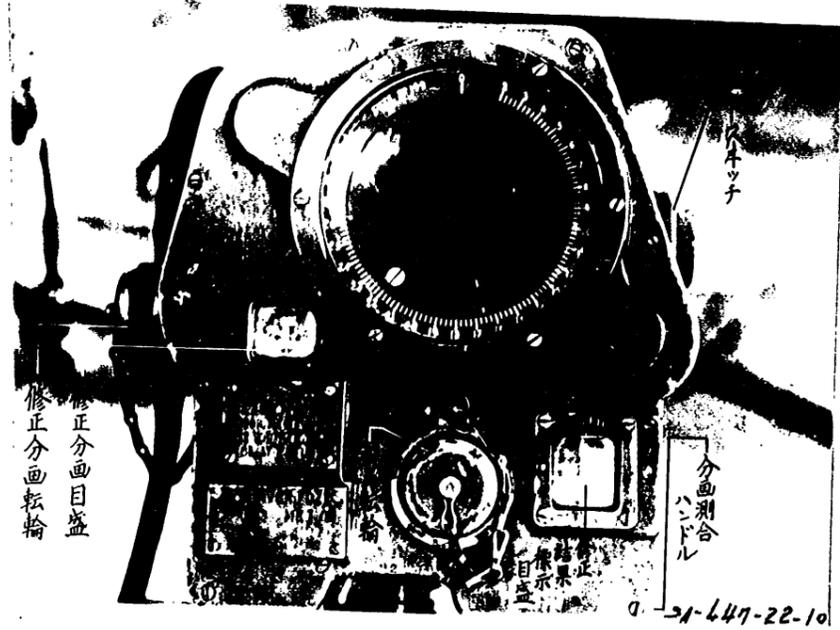


番 號	名 稱
1	彈丸固定ハンドル
2	信管測合ハンドル
3	分蓋受信ハンドル
4	彈丸裝入孔
5	蓋
6	肘角板
7	發填架壓板
8	裝填架握把

裏面白紙

附圖第二十一

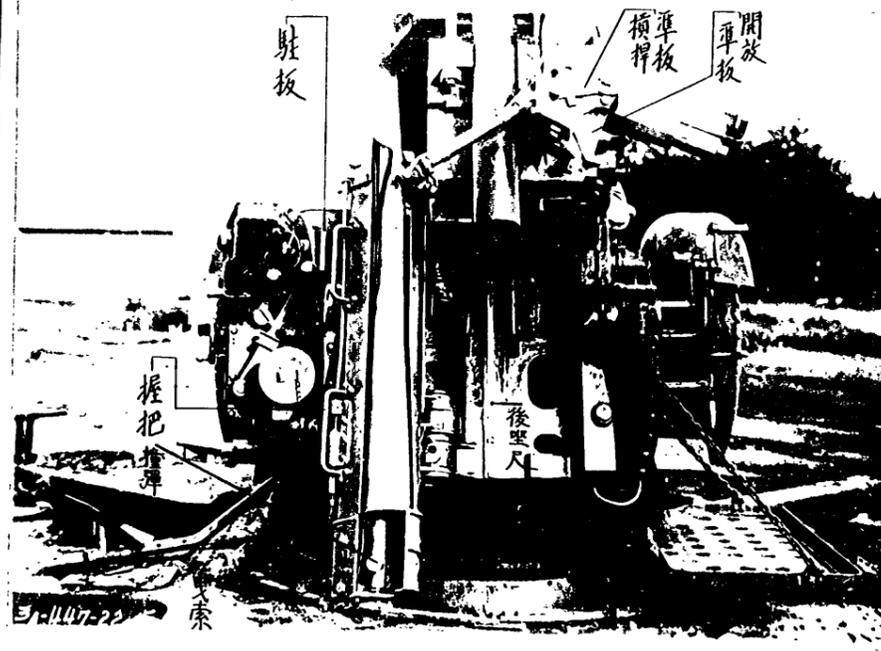
信管測合機目盛



裏面白紙

附圖第二十二

領興墳發丸強



裏面白紙

附 圖 第 二 十 三

砲 架  
( 方 向 舵 檣 、 水 準 器 )



裏  
面  
白  
紙

